



インバウンドの外国人向け教室

奈良まちづくりセンター理事 大和まちなみ文化塾塾長 阪本日出雄

大和まちなみ文化塾とは奈良町や今井町の古民家を活用して伝統文化の教室を運営するビジネスです。

◆インバウンドの状況

統計によれば2017年に奈良県を訪れた観光客は209万人。一番多いのは中国人ですが、観光文化の成熟度なのか欧米人は日本の文化や生活体験に関心を示す傾向にあるといわれています。

大和まちなみ文化塾のキャッチフレーズは「あなたはもっと日本人」ですが、これは外国人への呼びかけでもあります。成人なら一日当たり約2kg以上を排泄し、ほぼ同量を飲食で摂取します。つまり日本に10日滞在すると体の組成の20kgほどはメイドインジャパン。体の一部が日本人になったように、心の一部も日本人になってみませんか？ そういう意味の「あなたはもっと日本人」なのです。

◆猿沢インで初回の英語で日本酒教室

奈良県の外国人観光客交流館(猿沢イン)で7月4日午後5時から英語の日本酒教室を開催し塾長の阪本が講師をつとめました。会費を2500円に設定し、チラシやインターネットでも広告。イギリス、フランス、韓国、オーストラリア、パプアニューギニア、日本から10人の参加を得ました。



写真1: 英語で日本酒教室の参加者

最初は日本神話でスサノウが酒に酔わせてからヤマタノオロチを退治した話、神前結婚で三々九度の盃を飲みかわす風習などを紹介。次に発酵の話をワイン、ビール、日本酒を比べて解説。でんぷんを糖化する仕組み

や食用米と酒米、精米歩合を説明しました。また教材の四種類の日本酒を試飲しながら香と味の違い、なぜそうなるのかを語りました。



写真2: 英語で日本酒教室の講義の様子

この間60分。お酒と水しか出してないのに、誰も酔うことなく講義に傾聴してくれたのには感心しました。仕上げは刺酒(ききさけ)ゲーム。どの酒が入っているかを教えずにABCDと書いたミニカップで飲んで銘柄を当ててもらいました。恐ろしいことに半分以上の参加者が全問正解。外国人だから日本酒の味なんてわかるはずがない、というのは大きな間違いだと実感しました。その後、軽食を出しました。事後アンケートでの評価は極めて高く、参加費は4,000円でも客は来るでしょう。

◆今後のインバウンド対応方針

「英語で日本酒教室」の猿沢インか奈良町物語館での定例開催を検討しています。「まちなみ文化塾」の目的は古民家活用なので物語館での開催が本来の趣旨に沿うこととなります。また日本酒の解説は教室でなく飲み屋巡りをしながらでも可能なので、英語での町歩き日本酒ガイドを始めます。

小規模なインバウンド観光経営のむつかしさは集客です。例えば8月1日に外国人向けの教室やガイドをしたと思って、何週間も前から市内の観光案内所やホテルにチラシを置いて効果はありません。まさにその日に奈良市に居る見込みの観光客に情報を届ける必要があるのです。外国人の集客はこれからの勉強になります。この連載とともに集客力も育てて行きます。